

NPO 法人自然観察指導員埼玉主催

## 和光の湧き水研修会、白子湧水群 富澤湧水と大坂ふれあいの森・報告

2013年12月1日 和光市の白子湧水群を中心にした研修会が行われました。この研修会は、NACS' Jが進めている「モニタリング1000里地調査」に指定をうけた当地について、「白子湧水群の特徴」を知ってもらい、実際に調査のマニュアルを使ってモニタリングを行ってもらおうという内容です。

当日は和光市松本市長がお出で下さり、小峯代表、牧野副代表が揃った和光での開催となり、NACS' Jのモニ1000里地の担当後藤ななさんも参加いただきました。狭山、朝霞方面からの参加者が多く総勢21名でした。



「和光市の自然・地質と植物の関連」について高橋勝緒氏の講演では

和光市は、地理的に、青梅を起点に東側方向に広がる武蔵野台地の末端部にあり、急斜面から湧水が湧き出しているのが見られ、特に白子湧水群では連続して湧き水が形成されています。中心の富澤湧水では、崖の中腹から湧水が湧き出し、武蔵野台地の湧水の仕組みがわかる地層が見られます。大坂ふれあいの森では、急斜面の下部崖錐には、イチリンソウが自生し、少し上部にあるレキ層上部の粘土質が補水層になり、カタクリが自生していることなどが示され

ました。

いよいよ現地富澤湧水で、実際に湧き水の仕組みが見られる地層を観察し、湧水量や水質を計り、湧水周辺の植物相を「モニタリングサイト1000」里地調査マニュアルを使い、皆さんと一緒に調査しました。

水量は富澤湧水一か所で790/分。このような場所が4、5か所あり、乾季でも湧水量があまり変わらず絶えることがありません。植物相では、専門の牧野先生が中心に、調査コースから約1メートルの範囲にある主に草本について一つ一つモニタリングし、記録していきました。皆さんの熱心な調査で、見る見るうちに富澤湧水斜面林の植生が解り、午前はいったん終了しました。



午後は大坂ふれあいの森で、景観を3タイプに分けたコースで、熱心な調査が行われ、同定が難しいシダ植物についても次々と明らかにされました。またここには、崖地には火山灰が積もった関東ローム層が見られ、急な斜面の下には、崖錐という地形があることを実際に観察して、春には崖錐より上部にカタクリ、崖錐にはイチリンソウやキツネノカミ

ソリの群落が見られることなど、植物と地形の関連を実感してもらいました。更に小水路周辺の調査を進ませて、和光のモニ1000里地をおおよそ終わらせることが出来ました。

小峯代表、牧野副代表のご協力、湧き水の会の温かい「湧き水のお茶」のサービスも加わって、熱のこもった有意義な研修会となりました。今後進められる予定の、県の事業の参考にもなるのではないかとのお話でした。



NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 高橋綱世記